

# 徳島市立考古資料館年報

第 18 号 (平成 27 年度)



徳島市立考古資料館

## ごあいさつ

平成27年度は公益社団法人徳島市シルバー人材センターが指定管理者として管理業務を受託して以来、7年目の年となりました。

平成27年度は新聞・テレビ等のメディアや考古資料館ホームページでの広報活動を充実させることができ、例年より多くの方に来館していただきました。平成26年度から引き続き実施している体験学習会「とくしま好古楽倶楽部」は幅広い世代の方に親しまれ、考古資料館を中心に世代を超えたコミュニティが徐々に形成されつつあります。また、考古学入門講座は「ゼロから始める考古学」をスローガンに掲げ、考古学を学ぶ場として受講者の方々に好評を得ることができました。

最後になりましたが、事業活動などにおきまして、ご指導・ご協力などを賜りました関係者の方々に深く感謝申し上げますとともに、今後も変わらぬご指導・ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

徳島市立考古資料館

## 目次

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 平成27年度実施事業               | 2ページ  |
| 平成27年度実施事業詳細             |       |
| 夏季企画展                    | 4ページ  |
| 特別企画展                    | 5ページ  |
| 特別企画展 関連事業               | 7ページ  |
| 冬季企画展                    | 8ページ  |
| 冬季企画展 関連事業               | 9ページ  |
| 考古学入門講座                  | 10ページ |
| とくしま好古楽倶楽部               | 12ページ |
| サマーフェスティバル               | 14ページ |
| 文化財まつり                   | 16ページ |
| 古代ロマンへの旅                 | 18ページ |
| 教育普及活動関連事業               | 19ページ |
| 統計                       |       |
| 月別入館者数                   |       |
| 過去5年間の入館者数推移             | 21ページ |
| 主要事業来館者・参加者集計            | 22ページ |
| 考古資料館協議会                 |       |
| 考古資料館協議会概要               | 23ページ |
| 考古資料館協議会委員               | 23ページ |
| 平成27年度第1回考古資料館協議会議事抄録    | 23ページ |
| 平成27年度第2回考古資料館協議会議事抄録    | 26ページ |
| 条例・規則等                   |       |
| 徳島市立考古資料館条例              | 30ページ |
| 徳島市立考古資料館条例施行規則          | 33ページ |
| 徳島市立考古資料館子供現地学習事業助成金交付規則 | 34ページ |
| 書式                       |       |
| 徳島市立考古資料館研修室等利用承諾申請書     | 35ページ |
| 資料調査申込書                  | 36ページ |
| 研究報告                     |       |
| 渋野丸山古墳についての雑感            | 37ページ |

## 平成27年度実施事業

- 5月8日(金)  
佐那河内村立佐那河内小学校6年生社会見学  
徳島市国府小学校6年生社会見学
- 5月10日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第1回)  
「青銅鏡を作ってみよう」
- 5月14日(木)  
徳島市新町小学校6年生社会見学  
徳島市津田小学校出前授業
- 5月22日(金)  
小松島市南小松島小学校5年生社会見学
- 5月30日(土)  
考古学入門講座(第1回)  
「稲作の始まり」
- 6月11日(木)  
しらすぎ台さくらの会出前授業
- 6月14日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第2回)  
「装身具を作ってみよう」
- 6月16日(火)  
神山町広野小学校6年生社会見学
- 6月27日(土)  
考古学入門講座(第2回)  
「木簡について」
- 7月12日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第3回)  
「布ぞうりを作ってみよう」
- 7月14日(火)  
デイサービスセンターわかば出前授業
- 7月18日(土)～8月30日(日)  
夏季企画展「ナゾとき考古学2  
ー土器ドキ!土器のナゾを解明せよー」
- 7月18日(土)  
渋野夏祭り出前授業
- 7月25日(土)  
考古学入門講座(第3回)  
「古墳についてー出現から終焉までー」
- 8月2日(日)  
徳島市立考古資料館サマーフェスティバル
- 8月4日(火)  
徳島県立城ノ内中学校体験学習
- 8月9日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第4回)  
「土器を作ってみよう」
- 8月29日(土)  
考古学入門講座(第4回)  
「徳島の瓦」
- 9月5日(土)  
子どもゼミナール体験学習
- 9月13日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第5回)  
「染物に挑戦してみよう」
- 9月19日(土)～11月23日(月・祝)  
特別企画展「FACEー表情の考古学ー」  
特別企画展展示解説会
- 9月26日(土)  
考古学入門講座(第5回)  
「天皇陵の考古学」
- 10月4日(日)  
文化財まつり  
特別企画展展示解説会
- 10月9日(金)  
デイサービスセンターわかば出前授業
- 10月11日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第6回)  
「古代米・ドングリを食べてみよう」
- 10月17日(土)  
古代ロマンへの旅
- 10月20日(火)～21日(水)  
地域職場体験学習  
(徳島市国府中学校2年生 2名)
- 10月23日(金)  
徳島市佐古小学校6年生社会見学
- 10月25日(日)  
特別企画展関連ワークショップ①  
「顔」にまつわる土製品を作ろう」
- 10月29日(木)  
徳島市沖洲小学校6年生社会見学
- 10月31日(土)  
特別企画展記念講演会  
「表情は時代をうつす」
- 11月6日(金)～7日(土)  
全国古代体験フェスティバル
- 11月8日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第7回)  
「ガラス勾玉を作ってみよう」

- 1 1月14日(土)  
特別企画展展示解説会
- 1 1月22日(日)  
特別企画展関連ワークショップ②  
「顔」にまつわる土製品を作ろう
- 1 1月25日(水)  
徳島市入田小学校6年生社会見学
- 1 1月28日(土)  
考古学入門講座(第6回)  
「律令期の徳島の祭祀」
- 1 2月5日(土)  
四国大学学外授業
- 1 2月13日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第8回)  
「蠟燭を作ってみよう」
- 1 2月26日(土)  
考古学入門講座(第7回)  
「阿波の中世城郭」
- 1 月16日(土)  
鳴門教育大学学外授業
- 1 月17日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第9回)  
「石器を作ってみよう」
- 1 月23日(土)～3月13日(日)  
冬季企画展「徳島市の遺跡Ⅱ－渋野丸山古墳－」
- 1 月30日(土)  
考古学入門講座(第8回)  
「土器について－年代のモノサシ－」  
冬季企画展展示解説会
- 2 月3日(水)～5日(金)  
地域職場体験学習  
(徳島市加茂名中学校2年生 6名)
- 2 月14日(日)  
とくしま好古楽倶楽部(第10回)  
「青銅鏡形チョコレートを作ってみよう」
- 2 月17日(水)  
デイサービスセンターわかば出前授業
- 2 月21日(日)  
冬季企画展関連ワークショップ  
「円筒埴輪をつくろう」
- 2 月27日(土)  
冬季企画展記念講演会  
「渋野丸山古墳の発掘調査」
- 3 月7日(月)  
新町小学校出前授業

平成27年度実施事業詳細 夏季企画展

平成27年度 夏季企画展「ナゾとき考古学2」

会 期

平成27年7月18日（土）から  
8月30日（日）まで

開催日数

38日

場 所

徳島市立考古資料館 展示室

主 催

徳島市立考古資料館  
徳島市教育委員会

事業区分

展示公開活動事業－企画展示

概 要

夏休みの子供向けの展示として、土器にテーマを当てた。クイズ形式の展示とし、パンフレットに来館者が答えを書き込みパンフレットを完成させる方式をとった。パンフレットを完成させたナゾとき挑戦者には考古資料館オリジナル缶バッジをプレゼントした。



夏季企画展「ナゾとき考古学2」ポスター

展 示 品

- ・甕 / 南庄遺跡遺跡
  - ・須恵器 / 恵解山10号墳
  - ・土師器 / 阿波国府跡
- など約30点

入館者数

|            | 男性   | 女性   | 計     |
|------------|------|------|-------|
| 小学生以下      | 502  | 462  | 964   |
| 中学生以上      | 849  | 759  | 1608  |
| 合計         | 1351 | 1221 | 2572  |
| 一日当たりの入館者数 |      |      | 67.68 |



展示風景

平成27年度実施事業詳細 特別企画展

平成27年度 特別企画展「FACE—表情の考古学—」

会 期

平成27年9月19日（土）から  
11月23日（月）まで

開催日数

56日

場 所

徳島市立考古資料館 展示室

主 催

徳島市立考古資料館  
徳島市教育委員会

後 援

徳島県文化財保存整備市町村協議会  
徳島市文化財保勝会連絡協議会  
徳島新聞社  
朝日新聞徳島総局  
毎日新聞徳島支局  
読売新聞徳島支局  
NHK 徳島放送局  
四国放送  
国府町 CATV (順不同)



特別企画展「FACE—表情の考古学—」ポスター

事業区分

展示公開活動事業—企画展示

概 要

まじないや祭りの道具に人の顔を象ったものは古くから用いられていた。徳島市内からは矢野遺跡より縄文時代の土製仮面、庄遺跡より弥生時代の木偶、観音寺遺跡より墨書人面土器が出土している。本展では顔にまつわる様々な考古資料を通して、顔を象った目的やその表情から当時の人々の思いなどに考えを馳せる展示とした。



展示風景①

来館者数

|            | 男性   | 女性   | 計     |
|------------|------|------|-------|
| 小学生以下      | 351  | 324  | 675   |
| 中学生以上      | 1213 | 1145 | 2358  |
| 合計         | 1564 | 1469 | 3033  |
| 一日当たりの入館者数 |      |      | 54.16 |

## 主な展示品

### 土製仮面 / 仏並遺跡

公益財団法人大阪府埋蔵文化財センター所蔵

### 木偶 [徳島市指定文化財] / 庄遺跡

当館所蔵

### 木偶（複製） / 下之郷遺跡

守山市教育委員会所蔵

### 木偶 [滋賀県指定文化財] / 烏丸崎遺跡

滋賀県立安土城博物館所蔵

### 邪視文土器 / 亀井遺跡

公益財団法人大阪府文化財センター所蔵

### 人面付土器 [京都府指定文化財] / 森本遺跡

京都府立山城郷土資料館所蔵

### 人面付土器 [茨木市指定文化財] / 目垣遺跡

茨木市教育委員会所蔵

### 土偶形容器 / 赤野井浜遺跡

滋賀県埋蔵文化財センター所蔵

### 人形土製品 / 池島・福万寺遺跡

大阪府教育委員会所蔵

### 土偶 [茨木市指定文化財] / 東奈良遺跡

茨木市教育委員会所蔵

### 人形土製品（複製） / 百間川兼基遺跡

岡山県古代吉備文化財センター所蔵

### 黥面土偶 / 津寺遺跡

岡山市埋蔵文化財センター所蔵

### 人形土製品 / 熊山田遺跡

瀬戸内市教育委員会所蔵

### 分銅形土製品 / 矢野遺跡

当館所蔵

### 人面付土製品 [豊中市指定文化財] / 新免遺跡

豊中市教育委員会所蔵

### 人面付分銅形土製品 / 綾川河床遺跡

香川県埋蔵文化財センター所蔵

### 人面付分銅形土製品 / 祝谷六丁場遺跡

松山市考古館所蔵

### 墨書人面土器 [京都市指定文化財] / 水垂遺跡

京都市所蔵

など約100点



展示風景②



展示風景③



展示風景④



展示風景⑤

平成27年度実施事業詳細 特別企画展 関連事業

平成27年度特別企画展記念講演会「表情は時代をうつす」

実施日時

平成27年10月31日(土)  
14時～16時

場 所

徳島市立考古資料館 研修室

対 象

小学生以上(小学生は保護者同伴)



講座風景

事業区分

教育普及活動事業—生涯学習支援事業

概 要

深澤芳樹氏(天理大学客員教授)を講師に招き「表情は時代をうつす」というテーマで、縄文時代から平安時代までの顔を表現した考古資料をもとに当時の習俗、祭祀の意図についてご講演いただいた。

参加者数

|           |    |
|-----------|----|
| 男性(中学生以上) | 16 |
| 女性(中学生以上) | 7  |
| 合計        | 23 |

平成27年度特別企画展関連ワークショップ「顔にまつわる土製品をつくろう」

実施日時

平成27年10月25日(日)[土製品づくり]  
11月22日(日)[土製品の焼成]  
13時～16時

場 所

徳島市立考古資料館 展示室



対象

小学生以上(小学生は保護者同伴)

事業区分

教育普及活動事業—生涯学習支援事業

概 要

平成27年度特別企画展の関連ワークショップとして開催した。1回目は展示資料を観察したのち、オリジナルの顔を表現した土製品を製作した。2回目は資料館西側の広場にて焼成を行った。



| 2015/10/25 | 男性 | 女性 | 計 |
|------------|----|----|---|
| 小学生以下      | 1  | 1  | 2 |
| 中学生以上      | 2  | 5  | 7 |
| 合計         | 3  | 6  | 9 |
| 2015/11/22 | 男性 | 女性 | 計 |
| 小学生以下      | 0  | 0  | 0 |
| 中学生以上      | 1  | 4  | 5 |
| 合計         | 1  | 4  | 5 |

冬季企画展「徳島市の遺跡Ⅱ 渋野丸山古墳」

会 期

平成28年1月23日(土)から  
3月13日(日)まで

開催日数

43日

場 所

徳島市立考古資料館 展示室

主 催

徳島市立考古資料館  
徳島市教育委員会

事業区分

展示公開活動事業—企画展示

概 要

徳島市の遺跡を紹介する企画展の第2弾として開催。徳島市渋野町に所在する国史跡渋野丸山古墳に焦点を当て、出土した埴輪や土師器など関連資料を展示した。

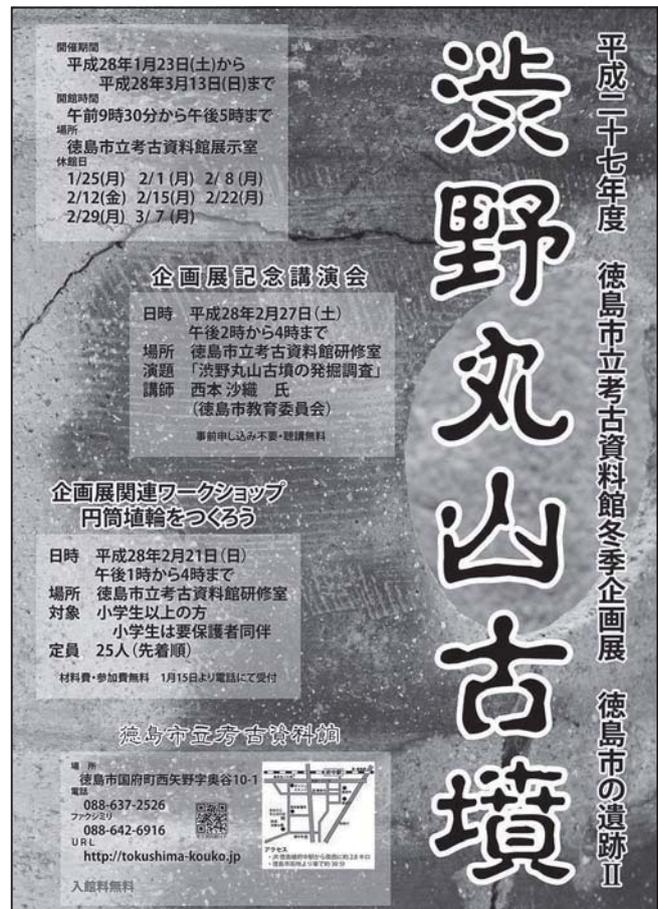
展 示 品

- ・円筒埴輪 / 渋野丸山古墳
- ・形象埴輪片 / 渋野丸山古墳
- ・土師器 / 渋野丸山古墳

など約30点

入館者数

|            | 男性  | 女性  | 計     |
|------------|-----|-----|-------|
| 小学生以下      | 82  | 51  | 133   |
| 中学生以上      | 764 | 708 | 1472  |
| 合計         | 846 | 759 | 1605  |
| 一日当たりの入館者数 |     |     | 37.33 |



冬季企画展「徳島市の遺跡Ⅲ 渋野丸山古墳」ポスター



展示風景

## 平成27年度実施事業詳細 冬季企画展 関連事業

### 平成27年度冬季企画展記念講演会「渋野丸山古墳の発掘調査」

#### 実施日時

平成28年2月27日（土）  
14時～16時

#### 場 所

徳島市立考古資料館 研修室

#### 対 象

小学生以上（小学生は保護者同伴）



講演風景

#### 事業区分

教育普及活動事業－生涯学習支援事業

#### 概 要

渋野丸山古墳の整備に携わっている西本沙織氏（徳島市教育委員会社会教育課）を講師に招き、渋野丸山古墳のこれまでの発掘調査成果と今後の整備と活用の展望についてご講演いただいた。

#### 参加者数

|           |    |
|-----------|----|
| 男性(中学生以上) | 39 |
| 女性(中学生以上) | 22 |
| 合計        | 61 |

### 平成27年度冬季企画展関連ワークショップ「円筒埴輪をつくろう」

#### 実施日時

平成28年2月21日（日）  
13時～16時

#### 場 所

徳島市立考古資料館 展示室



#### 対象

小学生以上（小学生は保護者同伴）

#### 事業区分

教育普及活動事業－生涯学習支援事業

#### 概 要

平成27年度冬季企画展の関連ワークショップとして開催した。展示している渋野丸山古墳出土の円筒埴輪を観察した後、ミニチュアの円筒埴輪を製作した。



作業風景

#### 参加者数

|       | 男性 | 女性 | 計  |
|-------|----|----|----|
| 小学生以下 | 8  | 4  | 12 |
| 中学生以上 | 3  | 15 | 18 |
| 合計    | 11 | 19 | 30 |

平成27年度実施事業詳細 考古学入門講座

考古学入門講座

実施日時

概要参照

場 所

徳島市立考古資料館 研修室

事業区分

教育普及活動事業—生涯学習支援事業

概 要

「ゼロから始める考古学」のテーマにより、無料公開講座を開催した。

参加者数

|     | 男性<br>(中学生以上) | 女性<br>(中学生以上) | 合計  |
|-----|---------------|---------------|-----|
| 第1回 | 35            | 6             | 41  |
| 第2回 | 13            | 7             | 20  |
| 第3回 | 47            | 13            | 60  |
| 第4回 | 29            | 9             | 38  |
| 第5回 | 52            | 21            | 73  |
| 第6回 | 28            | 14            | 42  |
| 第7回 | 55            | 9             | 64  |
| 第8回 | 36            | 10            | 46  |
| 合計  | 295           | 89            | 384 |

第1回 「稲作の始まり」

日 時 平成27年5月30日(土)  
午後2時～4時

講 師 中村 豊 氏  
(徳島大学大学院ソシオアーツアンドサイエンス研究部准教授)

第2回 「木簡について」

日 時 平成27年6月27日(土)  
午後2時～4時

講 師 大栗美菜  
(徳島市立考古資料館 学芸員)

第3回 「古墳について—出現から終焉まで—」

日 時 平成27年7月25日(土)  
午後2時～4時

講 師 村田昌也  
(徳島市立考古資料館 主任学芸員)

第4回 「徳島の瓦」

日 時 平成27年8月29日(土)  
午後2時～4時

講 師 岡本治代 氏  
(徳島県立博物館 主任学芸員)

# 考古学入門講座

講座スケジュール

■第1回 5月30日(土) 14時～16時

「稲作のはじまり」

中村 豊氏 徳島大学大学院 准教授

■第2回 6月27日(土) 14時～16時

「木簡について」

大栗美菜 徳島市立考古資料館 学芸員

■第3回 7月25日(土) 14時～16時

「古墳について—出現から終焉まで—」

村田昌也 徳島市立考古資料館 主任学芸員

■第4回 8月29日(土) 14時～16時

「徳島の瓦」(仮題)

岡本治代氏 徳島県立博物館 主任学芸員(考古担当)

■第5回 9月26日(土) 14時～16時

「天皇陵の考古学」

山田邦和氏 同志社女子大学 教授

■第6回 11月28日(土) 14時～16時

「律令期の徳島の祭祀」

大栗美菜 徳島市立考古資料館 学芸員

■第7回 12月26日(土) 14時～16時

「徳島の中世城郭」(仮題)

杉原賢治氏 高松市埋蔵文化財センター調査員

■第8回 1月30日(土) 14時～16時

「土器について—年代のモノサシ—」

村田昌也 徳島市立考古資料館 主任学芸員

- ◆参加費：無料
- ◆定 員：80名
- ◆対 象：小学生以上
- ◆事前申込は不要です。  
直接資料館にお越しください。



徳島市立考古資料館  
〒779-3127 徳島市国府町西矢野字奥谷10-1  
TEL 088-637-2526 URL <http://tokushima-kouko.jp>

第5回 「天皇陵の考古学」

日 時 平成27年9月26日(土)  
午後2時～4時

講 師 山田邦和 氏  
(同志社女子大学 教授)

第6回 「律令期の徳島の祭祀」

日 時 平成27年11月28日(土)  
午後2時～4時

講 師 大栗美菜  
(徳島市立考古資料館 学芸員)

第7回 「阿波の城郭」

日 時 平成27年12月26日(土)  
午後2時～4時

講 師 杉原賢治 氏  
(高松市創造都市推進局文化財課)

第8回 「土器について—年代のモノサシ—」

日 時 平成28年1月30日(土)  
午後2時～4時

講 師 村田昌也  
(徳島市立考古資料館 主任学芸員)



第1回 5月30日(土)  
「稲作のはじまり」



第2回 6月27日(土)  
「木簡について」



第3回 7月25日(土)  
「古墳について - 出現から終焉まで -」



第4回 8月29日(土)  
「徳島の瓦」



第5回 9月26日(土)  
「天皇陵の考古学」



第6回 11月28日(土)  
「律令期の徳島の祭祀」



第7回 12月26日(土)  
「徳島の中世城郭」



第8回 1月30日(土)  
「土器について - 年代のモノサシ -」

## とくしま好古楽倶楽部

### 実施日時

概要参照

### 場 所

徳島市立考古資料館 研修室

### 事業区分

教育普及活動事業—生涯学習支援事業

### 概 要

とくしま好古楽倶楽部は考古資料から類推される技法や古から伝わる技術について様々な実践や実験を行うことにより、考古学への興味を高め、考古資料館を中心にした年齢や性別を超えたコミュニティづくりを目指した。

|   |  |  |
|---|--|--|
| <b>とくしま好古楽倶楽部</b>   |  |  |
| 定員：各回30名<br>(先着順)<br>対象：小学生以上<br>(小学生は保護者同伴)<br>◆申込期間中にお電話でお申し込みください。<br>◆学習会の詳細はホームページでお知らせします。                                      |  |  |
| 第1回 5月10日(日)<br>10:00～15:00<br><b>青銅鏡を作ってみよう</b><br>申込期間：4/10～<br>※材料費1500円が必要です。   |  |  |
| 第2回 6月14日(日)<br>13:00～16:00<br><b>装身具を作ってみよう</b><br>申込期間：5/10～<br>※参加費無料  | 第3回 7月12日(日)<br>13:00～16:00<br><b>布ぞうりを作ってみよう</b><br>申込期間：6/14～<br>※参加費無料      | 第4回 8月9日(日)<br>13:00～16:00<br><b>土器を作ってみよう</b><br>申込期間：7/12～<br>※参加費無料                   |
| 第5回 9月13日(日)<br>13:00～16:00<br><b>染物に挑戦してみよう</b><br>申込期間：8/9～<br>※参加費無料   | 第6回 10月11日(日)<br>13:00～16:00<br><b>古代米・ドングリを食べてみよう</b><br>申込期間：9/13～<br>※参加費無料 | 第7回 11月8日(日)<br>13:00～16:00<br><b>ガラス勾玉を作ってみよう</b><br>申込期間：10/11～<br>※参加費無料              |
| 第8回 12月13日(日)<br>13:00～16:00<br><b>蠟燭(ろうそく)を作ってみよう</b><br>申込期間：11/8～<br>※参加費無料  | 第9回 1月17日(日)<br>13:00～16:00<br><b>石器を作ってみよう</b><br>申込期間：12/13～<br>※参加費無料       | 第10回 2月14日(日)<br>13:00～16:00<br><b>青銅鏡形チョコレートを作ってみよう</b><br>申込期間：1/17～<br>※材料費500円が必要です。 |
| <b>徳島市立考古資料館</b><br>〒779-3127 徳島市国府町西矢野字奥谷10-1 TEL 088-637-2526 URL <a href="http://tokushima-kouko.jp">http://tokushima-kouko.jp</a> |  |  |

とくしま好古楽倶楽部ポスター

#### 第1回 「青銅鏡を作ってみよう」

日 時 平成27年5月10日(日)  
午後1時～4時

#### 第2回 「装身具を作ってみよう」

日 時 平成27年6月14日(日)  
午後1時～4時

#### 第3回 「布ぞうりを作ってみよう」

日 時 平成27年7月12日(日)  
午後1時～4時

#### 第4回 「土器を作ってみよう」

日 時 平成27年8月9日(日)  
午後1時～4時

#### 第5回 「染物に挑戦してみよう」

日 時 平成27年9月13日(日)  
午後1時～4時

#### 第6回 「古代米・ドングリを食べてみよう」

平成27年10月11日(日)  
午後1時～4時

#### 第7回 「ガラス勾玉を作ってみよう」

平成27年11月8日(日)  
午後1時～4時

#### 第8回 「蠟燭を作ってみよう」

平成27年12月13日(日)  
午後1時～4時

#### 第9回 「石器を作ってみよう」

平成28年1月17日(日)  
午後1時～4時

#### 第10回 「青銅鏡形チョコレートづくり」

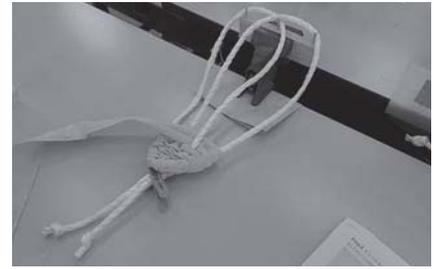
平成28年2月14日(日)  
午後1時～4時



第1回 青銅鏡を作ってみよう



第2回 装身具を作ってみよう



第3回 布ぞうりを作ってみよう



第4回 土器を作ってみよう



第5回 染物に挑戦してみよう



第6回 古代米・ドングリを食べてみよう



第7回 ガラス勾玉を作ってみよう



第8回 蝋燭を作ってみよう



第9回 石器を作ってみよう



第10回 青銅鏡形チョコレートを作ってみよう (1)



第10回 青銅鏡形チョコレートを作ってみよう (2)

|      | 男性<br>(中学生以上) | 男性<br>(小学生以下) | 女性<br>(中学生以上) | 女性<br>(小学生以下) | 合計  |
|------|---------------|---------------|---------------|---------------|-----|
| 第1回  | 4             | 2             | 5             | 1             | 12  |
| 第2回  | 6             | 6             | 7             | 4             | 23  |
| 第3回  | 6             | 6             | 19            | 2             | 33  |
| 第4回  | 6             | 18            | 21            | 10            | 55  |
| 第5回  | 4             | 4             | 16            | 5             | 29  |
| 第6回  | 2             | 3             | 11            | 7             | 23  |
| 第7回  | 1             | 4             | 17            | 4             | 26  |
| 第8回  | 2             | 6             | 21            | 6             | 35  |
| 第9回  | 3             | 9             | 12            | 3             | 27  |
| 第10回 | 1             | 4             | 12            | 4             | 21  |
| 合計   | 35            | 62            | 141           | 46            | 284 |

平成27年度実施事業詳細 サマーフェスティバル

サマーフェスティバル

実施日時

平成27年8月2日(日)

場 所

徳島市立考古資料館

対 象

徳島市内及び周辺在住の市民  
(子ども体験教室は小学生のみ)

事業区分

教育普及活動事業一学校教育支援事業

参加者数

|       | 男性  | 女性  | 計    |
|-------|-----|-----|------|
| 小学生以下 | 336 | 327 | 663  |
| 中学生以上 | 118 | 298 | 416  |
| 合計    | 454 | 625 | 1079 |

サマーフェスティバルポスター

| 区分    | 時間            | 教室名                               | 内容           | 定員         |
|-------|---------------|-----------------------------------|--------------|------------|
| 朝の部   | 前半9:30~10:45  | 夏休み宿題                             | 夏休みの課題習字等の指導 | 各40名       |
|       |               | 教室                                | 木工・竹細工等の指導   | 各50名       |
|       | 後半10:45~12:00 | 勾玉づくり                             | 勾玉づくり        | 各75名       |
|       |               | 手作り教室                             | 折り紙等の指導      | 25名        |
| 昼の部   | 14:00~16:30   | バルーンアート・シャボン玉・手品                  |              | 小学校<br>低学年 |
|       |               | 水鉄砲・竹馬                            |              | 50名        |
| お茶席   | 10:00~11:30   | 国府小学校茶道クラブ・国府公民館茶道クラブ等の協力・連携により実施 |              | 300名       |
| 生け花展示 | 9:00~16:30    | お茶席との連携で、地元有志等による生け花の展示           |              | なし         |



勾玉づくり



木工教室

手作り教室



習字教室

バルーンアート



ふれあい教室

お茶席



水鉄砲

生け花

平成27年度実施事業詳細 文化財まつり

文化財まつり

実施日時

平成27年10月4日(日)

場 所

徳島市立考古資料館

対 象

徳島市内及び周辺在住の市民  
(子ども体験教室は小学生のみ)

事業区分

文化財保存継承事業

入館者数

|       | 男性  | 女性  | 計   |
|-------|-----|-----|-----|
| 小学生以下 | 130 | 133 | 263 |
| 中学生以上 | 155 | 230 | 385 |
| 合計    | 285 | 363 | 648 |



文化財まつりポスター

| 区分      | 時間          | 内容   | 対象           |
|---------|-------------|--|--------------|
| 子ども体験教室 | 9:30~12:00  | 一日古代人<br>勾玉づくり ※100人   | 小学校<br>1~6年生 |
|         |             | 一日古代人<br>古代服を着てみよう ※100人                                     |              |
|         |             | 一日木の匠<br>木のおもちゃづくり ※25人                                      | 小学校<br>低学年   |
|         |             | バルーンアート・シャボン玉・手品 ※100人                                       |              |
| 人形浄瑠璃上演 | 13:00~14:30 | 「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段 前段」<br>(国府小学校人形浄瑠璃クラブ)<br>(国府歴史と文化の伝承会コスモス教室) | なし           |
|         |             | 「寿式三番叟」<br>(城北高等学校民芸部)                                       |              |
|         |             | 「傾城阿波の鳴門 十郎兵衛内の段」<br>(寄井座)                                   |              |
| 文化財めぐり  | 14:30~16:30 | 親子でウォーキングスタンプラリー ※30組  | 親子           |
| お茶席     | 10:00~12:00 | 国府小学校茶道クラブ・国府公民館茶道クラブ等との連携 ※200人                             | なし           |



勾玉づくり



手作り教室



ふれあい教室



特別企画展 展示解説会



古代服を着てみよう



親子でウォーキングスタンプラリー



お茶席



人形浄瑠璃  
国府小学校人形浄瑠璃クラブ  
国府歴史と文化の伝承会コスモス教室



人形浄瑠璃  
城北高等学校民芸部



人形浄瑠璃  
寄井座

## 平成27年度実施事業詳細 古代ロマンへの旅

### 古代ロマンへの旅

#### 実施日時

平成27年10月17日(日)

#### 場 所

徳島市立考古資料館 展示室

#### 対 象

徳島市内及び周辺在住の市民

#### 事業区分

教育普及活動事業—生涯学習支援事業

#### 概 要

平成25年度から始まったバスツアーの第3弾。考古資料館でとったアンケートに県外の遺跡見学を希望する来館者の声が多く寄せられたことから、隣県である香川県の史跡を巡るバスツアーを企画・実施した。

#### 参加者数

|       | 男性 | 女性 | 計  |
|-------|----|----|----|
| 小学生以下 | 1  | 0  | 1  |
| 中学生以上 | 13 | 24 | 37 |
| 合計    | 14 | 24 | 38 |

#### 香川県の史跡を巡るバスツアー

9:00 徳島市立考古資料館 集合

↓

10:20 富田茶白山古墳(さぬき市) 見学

↓

11:40 屋嶋城(高松市) 見学

大嶋和則氏(高松市創造都市推進局文化財課)に解説を賜る

↓

15:00 讃岐国分寺跡資料館(高松市)

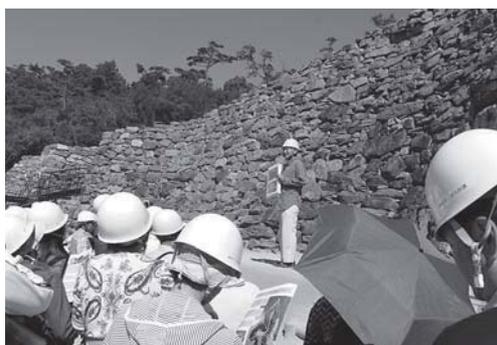
讃岐国分寺(高松市)の見学

↓

18:00 徳島市立考古資料館 解散



富田茶白山古墳の見学



屋嶋城の見学



讃岐国分寺跡資料館・讃岐国分寺の見学

## 平成27年度実施事業詳細 教育普及活動関連事業

### 社会科学習など見学受け入れ

考古資料館では小・中学校の歴史学習や総合学習などの見学を積極的に受け入れている。学芸員による展示室の解説の他にも矢野古墳の見学や、滑石を用いた勾玉づくり、舞hiri式による火おこし体験など、団体からの要望に応じて実施している。平成27年度は9団体の見学を受け入れた。

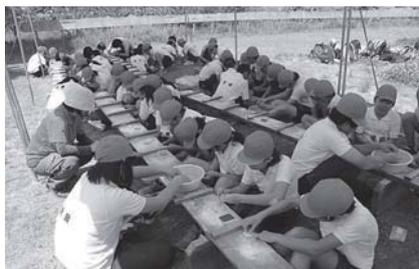
また、小学校による見学を積極的に誘致するため、資料館へ来館する際のバス費用の助成を徳島市内と近隣の小学校を対象に実施している（詳細は「徳島市立考古資料館子供現地学習事業助成金交付規則」を参照）。平成27年度は4校に対して助成を行った。

平成27年度は小学校等の団体見学の内訳は以下のとおり。

| 日付        | 団体名              | バス<br>助成 | 人数  | 内訳 |    |
|-----------|------------------|----------|-----|----|----|
|           |                  |          |     | 男子 | 女子 |
| 5月8日(金)   | 佐那河内村立佐那河内小学校6年生 | ○        | 19  | 14 | 5  |
| 5月8日(金)   | 徳島市国府小学校6年生      |          | 122 | 68 | 54 |
| 5月14日(木)  | 徳島市新町小学校6年生      | ○        | 20  | 11 | 9  |
| 5月22日(金)  | 小松島市南小松島小学校5年生   |          | 72  | 38 | 34 |
| 6月16日(火)  | 神山町広野小学校6年生      |          | 7   | 6  | 1  |
| 8月4日(火)   | 徳島県立城ノ内中学校1・2年生  |          | 32  | 18 | 14 |
| 10月23日(金) | 徳島市佐古小学校6年生      | ○        | 86  | 47 | 39 |
| 10月29日(木) | 徳島市沖洲小学校6年生      | ○        | 98  | 53 | 45 |
| 11月25日(水) | 徳島市入田小学校1～6年生    |          | 38  | 21 | 17 |



佐那河内小学校



国府小学校



南小松島小学校



城ノ内中学校



佐古小学校



沖洲小学校

## 平成27年度実施事業詳細 教育普及活動関連事業

### 地域職場体験の受け入れ

国府中学校実施の地域職場体験学習を受け入れた。

- ・2年生 平成27年10月20日(火)～21日(水)  
資料の調書作成、拓本、資料の写真撮影、勾玉づくりを体験した。

加茂名中学校実施の地域職場体験学習を受け入れた。

- ・2年生 平成28年2月3日(火)～5日(木)  
冬季企画展の解説パネルの作成、勾玉づくりを体験した。



国府中学校2年生職場体験



加茂名中学校2年生職場体験

### 体験学習・自由研究への対応

勾玉づくり、火おこし、矢野古墳見学などの体験学習は、学校からの要望に応じているが、学校の他にも様々な団体からの要望にも対応している。また、団体の他に個人単位での体験学習にも対応しており、平成27年度は夏休みを中心に計28件、延108人の体験学習の依頼があった。さらに、夏休みの自由研究などの相談には電話での対応も含めて、計10件、延14人の相談があった。

### 出前授業の実施

資料館への来館が困難な団体などに対して、市内の遺跡解説や出土資料の解説、勾玉づくりなど要望に応じて様々な体験学習ができるよう、アウトリーチ型の学習プログラム(出前授業)を用意している。平成27年度は7件の要望があった。

- ・徳島市津田小学校 平成27年5月14日(木)
- ・しらさぎ台さくらの会 平成27年6月11日(木)
- ・デイサービスセンターわかば 平成27年7月14日(火)・平成27年10月9日(金)  
平成28年2月17日(水)
- ・渋野夏祭り 平成27年度7月18日(土)
- ・徳島市新町小学校 平成28年3月7日(月)



津田小学校



デイサービスセンターわかば

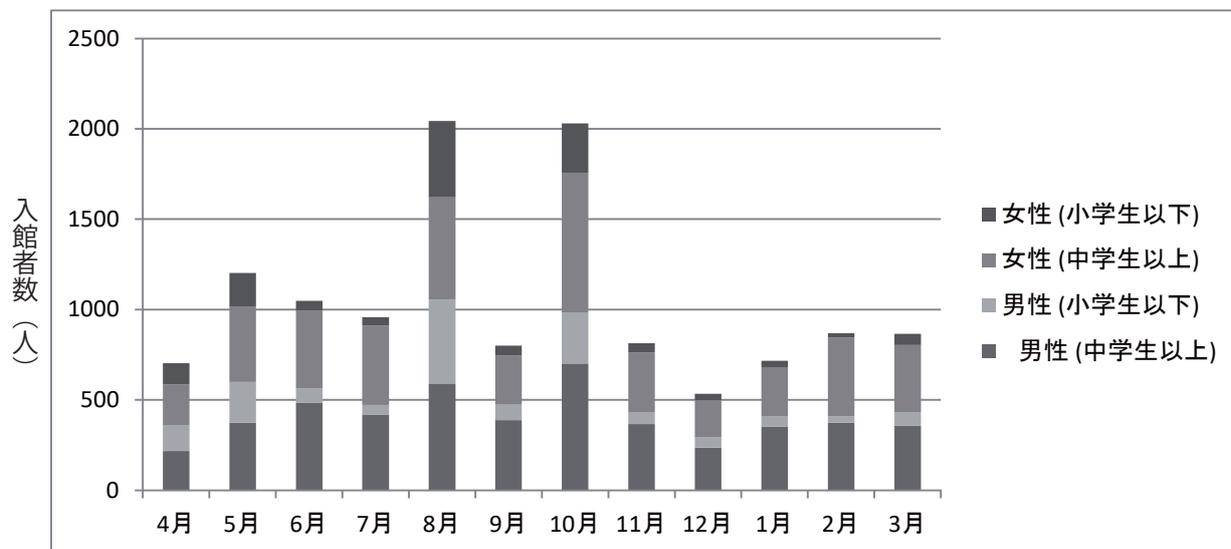


新町小学校

# 統計

## 月別入館者数

| 月        | 開館日数 | 男性      | 男性      | 女性      | 女性      | 合計    | 一日平均入館者数 |
|----------|------|---------|---------|---------|---------|-------|----------|
|          |      | (中学生以上) | (小学生以下) | (中学生以上) | (小学生以下) |       |          |
| 4月       | 25   | 217     | 144     | 225     | 117     | 703   | 28.12    |
| 5月       | 27   | 374     | 226     | 415     | 188     | 1203  | 44.56    |
| 6月       | 25   | 486     | 78      | 431     | 54      | 1049  | 41.96    |
| 7月       | 27   | 416     | 56      | 438     | 48      | 958   | 35.48    |
| 8月       | 26   | 591     | 464     | 566     | 423     | 2044  | 78.62    |
| 9月       | 26   | 388     | 86      | 273     | 54      | 801   | 30.81    |
| 10月      | 27   | 702     | 282     | 773     | 273     | 2030  | 75.19    |
| 11月      | 24   | 367     | 63      | 331     | 53      | 814   | 33.92    |
| 12月      | 23   | 235     | 57      | 206     | 36      | 534   | 23.22    |
| 1月       | 24   | 353     | 55      | 274     | 34      | 716   | 29.83    |
| 2月       | 23   | 374     | 36      | 435     | 24      | 869   | 37.78    |
| 3月       | 27   | 357     | 73      | 373     | 63      | 866   | 32.07    |
| 計        | 304  | 4860    | 1620    | 4740    | 1367    | 12587 | 41.40    |
| 一日平均入館者数 |      | 15.99   | 5.33    | 15.59   | 4.50    | 41.40 |          |



## 過去5年間の入館者数推移

|           | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 男性(中学生以上) | 3,435  | 4,341  | 4,527  | 4,273  | 4,860  |
| 男性(小学生以下) | 856    | 910    | 1,068  | 1,448  | 1,620  |
| 女性(中学生以上) | 2,960  | 3,984  | 4,235  | 3,734  | 4,740  |
| 女性(小学生以下) | 841    | 889    | 1,128  | 1,274  | 1,367  |
| 合計        | 8,092  | 10,124 | 10,958 | 10,729 | 12,587 |
| 一日平均入館者数  | 26.71  | 33.08  | 35.93  | 35.53  | 41.40  |

統計

主要事業来館者・参加者集計

| 事業名        | 平成27年度       | 平成26年度       |
|------------|--------------|--------------|
| 夏季企画展      | 2,572人       | 1,397人       |
|            | 38日 67.68人/日 | 35日 39.91人/日 |
| 特別企画展      | 3,033人       | 2,971人       |
|            | 56日 54.16人/日 | 54日 55.02人/日 |
| 冬季企画展      | 1,605人       | 1,558人       |
|            | 43日 37.33人/日 | 53日 29.4人/日  |
| 考古学入門講座    | 384人         | 235人         |
|            | 全8回          | 全5回          |
| 特別企画展記念講演会 | 23人          | 22人          |
| 企画展記念講演会   | 61人          | 23人          |
| とくしま好古楽倶楽部 | 284人         | 304人         |
|            | 全10回         | 全10回         |
| サマーフェスティバル | 1,079人       | 台風により中止      |
| 文化財まつり     | 648人         | 617人         |
| 古代ロマンへの旅   | 38人          | 39人          |

## 考古資料館協議会

### 考古資料館協議会概要

徳島市立考古資料館条例第16条に則り、考古資料館協議会を設置、7人の学校教育、社会教育の関係者及び学識経験者が徳島市教育委員会より協議会委員に任命されている。  
平成27年9月4日（金）と平成28年3月30日（水）に協議会を開催した。

### 考古資料館協議会委員

|     |         |                   |
|-----|---------|-------------------|
| 会長  | 中村 豊 氏  | 徳島大学大学院総合科学研究部准教授 |
| 副会長 | 須藤 茂樹 氏 | 四国大学文学部准教授        |
| 委員  | 盛 幸一 氏  | 徳島市社会教育委員会委員長     |
| 委員  | 佐藤 靖彦 氏 | 徳島市国府小学校校長        |
| 委員  | 多田 智彦 氏 | 徳島市国府中学校校長        |
| 委員  | 岩崎 正夫 氏 | 徳島市文化財保護審議会委員長    |
| 委員  | 高島 芳弘 氏 | 前徳島県立博物館館長        |

### 平成27年度 第1回 考古資料館協議会議事抄録

- I と き 平成27年9月4日（金）13時30分～14時30分
- II ところ 徳島市立考古資料館研修室
- III 出席者 協議会 中村会長・須藤副会長・盛委員・岩崎委員・佐藤委員・多田委員  
教育委員会 石井教育長・西名課長・建島課長補佐・吉岡管理係長  
考古資料館 山口館長・倉佐事務長・村田主任学芸員

### IV 内 容

- 1 委嘱状の交付  
委員の改選時期のために、石井教育長より出席の6委員に対して、委嘱状の交付をさせていただきました。
  - 2 あいさつ（石井教育長）
  - 3 自己紹介
  - 4 会長・副会長の選出  
互選により、中村委員が会長に、須藤委員が副会長に選出されました。
  - 5 新会長あいさつ（中村会長）
  - 6 議事  
議事進行については、中村会長にお願いいたしました。
- (1) 平成26年度 第2回徳島市立考古資料館協議会会議抄録報告
- (2) 平成27年度 徳島市立考古資料館事業計画
- (3) 平成27年度 徳島市立考古資料館主要事業概要報告  
（平成27年4月1日から平成27年8月20日まで）

## V 主なご意見

平成27年度徳島市立考古資料館事業計画等に関して、各委員より様々なご意見をいただきました。主な内容は次のようなものでした。

(◇=委員のご意見 ◎=考古資料館・社会教育課の回答)

### 1 展示公開活動について

◇冬季企画展では、渋野丸山古墳を取り上げるとのことですが、どのような展示を考えていますか。また、渋野丸山古墳は発掘調査もある程度進み、現在、調査成果をもとにした国指定史跡としての整備や活用を検討する段階に入っています。考古資料館からも史跡の活用案について提言をいただきたい。一案として、渋野丸山古墳周辺、文化の森、考古資料館を含む見学エリアができると良いと考えており、見学ルートについて具体案を来年度以降の計画として提言していただければと思います。

◇考古資料館で現在収蔵している文化財について、どのように保存管理しているのか、また、収蔵資料のデータベース化などは進んでいますか。

◎冬季企画展では市内の遺跡を知ってもらうため、渋野丸山古墳の調査成果を中心に展示する予定ですが、テーマを渋野丸山古墳に絞って紹介するのか、渋野丸山古墳を通して古墳そのものについて大きな枠の中で展示するのか現在ではまだ決めかねています。史跡の活用については、渋野丸山古墳の成立が徳島における古墳時代前期から中期へと移る大きなターニングポイントであり、中央勢力と在地の勢力との関係を示す重要な遺跡ですので、考古資料館としても何かしら活用できればと考えています。見学エリアについては、社会教育課とも相談の上、進めて行きたいと思います。

資料の保存管理について、その重要性は強く感じており、東南海地震に備えた対策、展示に耐えられるよう資料の修復と補強、資料カード及び台帳の作成、データベース化による情報の共有など喫緊の課題であることは認識しています。しかし、如何せんマンパワーに乏しく、展示活動など目先の行事をさばくのに手一杯で進んでいけないのが現状です。

◇特別企画展のチラシやポスターはまだできていないようですが、企画展全体の進捗状況はどのような感じですか。また、春季企画展を取りやめたことでどのくらいの省力化が図れましたか。具体的な数値がわかるなら教えてください。

◎特別企画展の進捗状況として、資料借用では9日から11日に近畿方面へ、14日から15日に岡山県、香川県、愛媛県にそれぞれ行きます。ポスターとチラシの納品日は8日、図録の編集

状況と納品日は8日に入稿で18日納品となっています。16日から18日まで展示準備となっています。また、春季企画展を取りやめたことで夏季企画展や他の行事に力を注げたと考えています。

◎春季企画展を取りやめたことで、去年度予算と比較して広報用印刷物、パンフレット印刷費、立て看板など消耗品費が削減することができた。(◎特別企画展予算の説明)

## 2 教育普及活動について

◇支援事業や関連事業などに本校児童を参加させていただき、お礼申し上げます。遠足（社会科学習）でも多くの児童が来館させていただきました。その際に、勾玉づくりも体験したのですが、学芸員の解説もあってどんな目的やいつの時代かなど詳しく学ばせていただきました。そのことをふまえ、先日のサマーフェスティバルで勾玉づくり教室を見学して思ったのですが、削り磨くだけでしたので勾玉のもつ意味などの解説や、啓発の意味もかねて資料があれば、なお良かったと感じました。そういった地道な活動が歴史に関心を持つきっかけとなり、ひいてはリピーター増加に繋がるのではないのでしょうか。

社会科学習で考古資料館に来るだけでなく、出前授業も学校側にとって大変良いプログラムです。広報で周知を広げれば利用する学校も今以上に増えるのではないのでしょうか。

## 3 事業活動全般について

◇配布資料の『月刊こうこNEWS』を見て、面白い試みをしているなど感じました。また、現体制で2年目となりますが、傍らから見ても全体としてよい方向に進んでいると思います。我々としても、さらに良い方向へ進むよう力添えをしたいと思います。

## 平成26年度 第2回 考古資料館協議会議事抄録

- I と き 平成28年3月30日(水) 13:25～15:00
- II ところ 徳島市立考古資料館 研修室
- III 出席者 協議会 中村会長・須藤副会長・盛委員・岩崎委員・佐藤委員・多田委員  
教育委員会 西名課長・建島課長補佐・吉岡管理係長・堤管理係主査  
考古資料館 山口館長・倉佐事務長・村田主任学芸員

### IV 内 容

- 1 開会
- 2 あいさつ(西名課長・中村会長)
- 3 議題
  - (1) 平成27年度 第1回徳島市立考古資料館協議会会議抄録報告
  - (2) 平成27年度 徳島市立考古資料館事業報告
  - (3) 平成28年度 徳島市立考古資料館事業計画
- 4 閉会

### V 主なご意見

「平成27年度考古資料館事業報告」並びに「平成28年度考古資料館事業計画に関して、各委員より様々なご意見をいただきました。主な内容は次のようなものでした。

(◇=委員のご意見 ◎=考古資料館・社会教育課の回答)

#### 1 展示公開活動について

◇平成28年度の特別企画展「刀剣の考古学」は面白い企画だと思いますが、弥生から古墳期の鉄製の刀剣はほとんどが錆ついているので、あまり展示には向かないのでは？青銅から鉄に刀剣の材質が変わったのは人類史的に見ても革新的な出来事でありますので、そのあたりの事象に触れてみるのも面白いと思います。

◎ご指摘の通り鉄製刀剣のほとんどが錆びついていますので、鉄製品は復元品を借用展示しようと考えており、藤ノ木古墳副葬品鉄刀、七支刀など一部の品では借用先施設から内諾を得ております。また、平成28年度特別企画展担当はこの会議の席にはいない大栗ですが、展示内容、構成はこれから様々な意見を参考にしつつ、大栗が詰めていくこととなりますので、よろしく願いします。

#### 2 教育普及活動について

◇兵庫県立考古博物館で行われた「全国古代体験フェスティバル2015」に学芸員の二人が参加されたそうですが、参加他団体の体験学習カリキュラムを間近で見て何か得たもの、また今後の資料館事業に反映できそうな事柄は在りましたか？

◎フェスティバルには台湾からの参加のほか、全国から博物館、任意団体など30を超える団体が参加していました。目立ったのは、他の団体、施設ではボランティアの方々が大勢参加していたことです。また、とりわけ印象的だったのは、地域を盛り立てる活動に力を入れている施設についてです。それらを見て、当館だけを盛り上げるのではなく、国府の地域も一緒に盛り上げることの大切さを感じました。その端緒として、地域を知ることから始めたいと思い、新年度はそれらを念頭に置いた事業を実施し、ボランティアの育成に取り組みたいと考えています。

◇全国的な取り組みを見て、それらの長所を取り入れ、積極的に学んでほしいと思います。また、体験型学習について一般の方から肯定的な意見を聞きました。難しい印象の座学よりも体験学習は間口が広く、考古学への関心、興味を抱くきっかけになるのではと思います。先日、メディアの報道を通じて、考古資料館の活動内容を知ることができました。それ以外でも、メディアで資料館の情報を目にする機会が増え、以前に比べ随分と広報活動に積極的に取り組まれていると感じました。ぜひ、今後とも努力をいただきたい。地域との連携についてですが、住民は考古資料館や史跡公園を自分たち地域の大切な財産だと思っていて特別の思い入れがあり、協力もしたいと思っていますが、具体的な活動内容についてはあまり知りません。史跡公園では、地域住民が交代で除草作業や遊歩道の清掃を行っていますが、資料館として今後どのような形で地域との連携を取って行くのですか。

◎事業内容の周知については、国府ケーブルテレビなど報道関係を通じてより一層の告知に努めて行きます。地域との連携については、イベントなど地域の方と共にできるよう工夫をしたいと考えています。

◇入館者が増えたことは何よりです。地域住民との連携、資料館事業への取り入れは大切だと私も思います。新年度事業の文化財マップづくりに係るボランティアですが、現在のボランティアの募集状況はいかがですか。また、ボランティア組織の今後の指針についてはどのように考えていますか。

◎ボランティアは4月1日からホームページなどで募集を予定しています。ボランティアへの基本的な考え方ですが、安易な労働力としては考えておらず、共に考え、協力して事に当たる共同作業という位置づけでとらえています。それらを踏まえて、お互いに補完できる関係を築けたらと考えています。

◇美波町ではエコミュージアム（住民の参加によって、その地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を、総体として永続的な（持続可能な）方法で研究・保存・展示・活用していくという考え方）への取り組みが始まっています。国府町でも資料館がコア施設となり、街角博物館をサテライト施設として、より連携を深め、地域住民を巻き込んでの活動も考えてみてください。ケーブルテレビ番組の利用の話が出ましたが、単に情報を提供するだけではなく、レクチャー的番組の製作の提言など、関わりを強めてみては？またマスコットキャラクターやロゴマークの公募なども考えてみてはいかがでしょうか。

◎CATV へのコンテンツの提供として遺跡に係るスライドショーなどは可能だと思います。解説のナレーションを中高生の放送部員にお願いできれば、学校側の実績にもなるのでは。マスコットキャラについては資料館開館20周年（平成30年11月）に向けて公募等を考えています。

◇施設と来館者のコミュニケーションを図って行くとういと思えます。公の施設はどうしても規制が多く、行動が制限されがちですが、史跡公園などは比較的自由に子供たちが伸び伸びと芝生で遊んでいます。資料館には車の入らない広い敷地があるので、ある程度は自由を認め遊び場所として提供し、まずは人が集まる施設づくりを目指してはいかがでしょうか。

◇国府地域の方々は、社会奉仕活動にも意欲的で、市民ボランティアとして清掃活動などにも積極的に参加されていますので、資料館事業への参加も難しいことではないと思えます。新年度事業の文化財マップづくりと徳島市文化振興課で進めている市民遺産百選を総合一体化した物を進めては？

◎市民が選ぶ百選はあの方向性でよいと思えますが、資料館で作るマップづくりは興味の対象を絞らずに行おうと思っています。多角的な情報をつめることで、一つの価値が生まれるのではと考えています。また、調査研究だけではなく、写真撮影やイラストなど参加者の得意な分野をマップづくりに生かしてもらえればと考えています。

◇中学生の職場体験についてですが、受け入れ可能人数を教えてください。また、体験内容は具体的にどのようなものでしょうか。

◎体験学習についてですが、受け入れ可能人数は学芸員の人数など勘案すると6名が上限となります。体験内容は、収蔵資料の撮影、実測、観察などを通しての資料調書づくり、企画展の展示パネルの構成や実際の製作など、実際の学芸員の業務を体験してもらいます。

◇文化財マップ製作のボランティア募集についてですが、ホームページの募集で人数が少ない場

合はどうするのですか。またマップ作成後のボランティア組織の活用はどのように考えていますか。

◎ボランティアの募集は4月中だけではなく、通年で行う予定です。成果の発表も資料館開館20周年の記念行事の一環としており、年度をまたぐ長いスパンの事業と考えています。

◇平成28年度文化財まつりの人形浄瑠璃の講演についてですが、国府小学校と城北高校と同じ演目となっていますが、どうしてですか？

◎同じ演目でも演者による個性が出て見比べることもでき、面白いのではと考えています。

○徳島市立考古資料館条例

平成10年6月24日

条例第26号

(設置)

第1条 本市は、市民の教育、学術及び文化の創造と発展に寄与するため、考古資料館を設置する。

2 考古資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 徳島市立考古資料館

位置 徳島市国府町西矢野字奥谷10番地の1

(事業)

第2条 徳島市立考古資料館(以下「考古資料館」という。)は、次に掲げる事業を行う。

(1) 原始・古代を中心とした考古資料等に関する実物、複製、模写、模型、文献、写真、図表、フィルム等の資料(以下「考古資料館資料」という。)を収集、保管及び展示すること。

(2) 考古資料館資料の利用者に対し、必要な説明、助言、指導等を行うこと。

(3) 考古資料館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

(4) 考古資料館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

(5) 考古資料館資料に関する展覧会、講演会、講習会、研究会等を主催し、又は奨励すること。

(6) 他の博物館、図書館、公民館、学校等の教育、学術又は文化に関する諸機関との連携及び相互協力を行うこと。

(7) その他前条の設置目的を達成するために必要な事業

(指定管理者による管理)

第3条 考古資料館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて教育委員会が指定するもの(以下「指定管理者」という。)に行わせる。

(全部改正〔平成20年条例20号〕)

(指定管理者が行う業務)

第4条 指定管理者は、次に掲げる業務を行う。

(1) 第2条各号に掲げる事業に関する業務

(2) 第6条の承諾に関する業務

(3) 考古資料館の維持管理に関する業務

(4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める業務

(全部改正〔平成20年条例20号〕)

(休館日及び供用時間)

第5条 考古資料館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 月曜日(月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは除く。)

(2) 休日の翌日(休日の翌日が日曜日、土曜日又は休日には当たるときは除く。)

(3) 1月1日から1月4日まで及び12月28日から12月31日まで

2 考古資料館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。

3 指定管理者は、特に必要があると認めるときは、前2項の規定にかかわらず、教育委員会の承認を得て、これを変更することができる。

(全部改正〔平成20年条例20号〕)

(利用の承諾)

第6条 考古資料館の研修室及び附属設備(以下「研修室等」という。)を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の承諾を受けなければならない。

2 学術研究等のため、考古資料館資料の撮影、模写、模造等(以下「特別利用」という。)を行おうとする者は、指定管理者の承諾を受けなければならない。

3 指定管理者は、前2項の承諾に考古資料館の管理上必要と認められる条件を付することができる。

(全部改正〔平成20年条例20号〕)

(利用の承諾の制限)

第7条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、研修室等の利用を承諾しない。

(1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。

(2) 研修室等及び考古資料館資料を損傷するおそれがあると認められるとき。

(3) 営利を目的として使用すると認められるとき。

(4) 考古資料館の事業の実施に支障があると認められるとき。

(5) その他公益上又は管理上適当でないと認められるとき。

(一部改正〔平成20年条例20号〕)

(特別利用の承諾の制限)

第8条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、考古資料館資料の特別利用の承諾をしない。

(1) 考古資料館資料の保存に悪影響が生じると認められるとき。

(2) 他の入館者の観覧に支障があると認められるとき。

(3) その他公益上又は管理上適当でないと認められるとき。

(一部改正〔平成20年条例20号〕)

(利用料金)

第9条 第6条第1項の承諾を受けた者は、指定管理者に研修室等の利用に係る料金(以下「利用料金」という。)を支払わなければならない。

2 利用料金の額は、別表に掲げる額の範囲内において指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定める。

3 利用料金は、第6条第1項の承諾の際に納入しなければならない。ただし、指定管理者が特に必要があると認める場合は、この限りでない。

4 利用料金は、指定管理者の収入として収受させるものとする。

(追加〔平成20年条例20号〕)

(利用料金の不還付の原則)

第10条 既に納入した利用料金は、返還しない。ただし、指定管理者が特別の事由があると認める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(追加〔平成20年条例20号〕)

(利用料金の減免)

第11条 指定管理者は、市長が別に定める基準に従い、利用料金を減額し、又は免除することができる。

(追加〔平成20年条例20号〕)

(入館の拒否等)

第12条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、考古資料館への入館を拒否し、又は退館を命ずることができる。

(1) 騒音を発し、又は暴力を用いる等他人に迷惑をかけるおそれがあると認められる者

(2) 考古資料館の施設、附属設備及び考古資料館資料を損傷するおそれがあると認められる者

(3) 感染性の疾患があると認められる者

(4) 他人に危害を及ぼし、若しくは迷惑をかけるおそれがあると認められる物品又は動物を携行する者

(5) その他考古資料館の管理上支障があると認められる者

(追加〔平成20年条例20号〕)

(利用等の承諾の取消し)

第13条 指定管理者は、研修室等の利用の承諾を受けた者及び考古資料館資料の特別利用の承諾を受けた者(以下「利用者」という。)が、次の各号のいずれかに該当するときは、その利用及び特別利用(以下「利用等」という。)の承諾を取り消し、又は制限し、若しくは停止することができる。

(1) 第7条及び第8条各号のいずれかに該当するに至ったとき。

(2) 利用等の承諾に付した条件に違反したとき。

(3) 偽りその他不正の手段により利用等の承諾を受けた事実が明らかになったとき。

(4) この条例、この条例に基づく規則若しくは教育委員会規則又はこれらに基づく命令に違反したとき。

(一部改正〔平成20年条例20号〕)

(原状回復の義務)

第14条 利用者は、その利用等が終わったとき又は前条の規定により利用等の承諾の取消し等の処分を受けたときは、直ちに原状に回復し、指定管理者の係員の点検を受けなければならない。

2 利用者が前項の義務を履行しない場合は、指定管理者がこれを代行し、これに要した費用を利用者から徴収する。

(一部改正〔平成20年条例20号〕)

(損害賠償等の義務)

第15条 考古資料館の施設、附属設備又は考古資料館資料を滅失し、損傷し、又は汚損した者は、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。

(一部改正〔平成20年条例20号〕)

(考古資料館協議会)

第16条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、考古資料館に徳島市立考古資料館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

3 協議会は、委員7人以内で組織する。

4 協議会の委員の任期は2年とし、補欠委員の任期は前任者の残任期間とする。ただし、再任を妨げない。

5 前項の規定にかかわらず、特別の事由があるときは任期中であっても解職することができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

(一部改正〔平成20年条例20号・24年14号〕)

(教育委員会規則への委任)

第17条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(一部改正〔平成20年条例20号〕)

附 則

(施行期日)

1 この条例は、規則で定める日から施行する。

(平成10年9月規則第45号により、平成10.10.1から施行。ただし、第3条から第14条までの規定並びに附則第2項及び第3項の規定は、平成10.11.21から施行)

(徳島市都市公園条例の一部改正)

2 徳島市都市公園条例(昭和32年徳島市条例第10号)の一部を次のように改正する。

(「次のよう」は省略)

(非常勤の特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

3 非常勤の特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和43年徳島市条例第3号)の一部を次のように改正する。

(「次のよう」は省略)

附 則(平成20年6月30日条例第20号)

(施行期日)

1 この条例は、平成21年4月1日から施行する。

(準備行為)

2 この条例による改正後の徳島市立考古資料館条例(以下「改正後の条例」という。)第3条に規定する指定管理者の指定及びこれに係る手続その他この条例を施行するために必要な行為は、この条例の施行の日(以下「施行日」という。)前においても行うことができる。

(経過措置)

3 施行日前において、この条例による改正前の徳島市立考古資料館条例(以下「改正前の条例」という。)の規定によりなされた処分、手続その他の行為は、改正後の条例の相当規定によってしたものとみなす。

4 前項の規定にかかわらず、施行日前において、改正前の条例第4条第1項の利用の承諾を受けた者であって、施行日以後に利用するものに係る使用料については、なお従前の例による。

附 則(平成24年3月29日条例第14号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

別表(第9条関係)

(一部改正〔平成20年条例20号〕)

1 研修室利用料金

2 附属設備利用料金

|        |                          |
|--------|--------------------------|
| 利用料金の額 | 1時間につき300円(全日利用は、2,100円) |
|--------|--------------------------|

| 種別         | 利用料金の額    |
|------------|-----------|
| ビデオデッキ その他 | 1件につき100円 |

(趣旨)

第 1 条 この規則は、徳島市立考古資料館条例(平成 10 年徳島市条例第 26 号。以下「条例」という。)の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

(施設等の利用の手続)

第 2 条 条例第 6 条第 1 項の規定により、考古資料館の研修室及び附属設備(以下「研修室等」という。)を利用しようとする者は、徳島市立考古資料館研修室等利用承諾申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 前項の申請書は、利用しようとする日(その日が引き続き 2 日以上に及ぶときは、その初日をいう。以下「利用日」という。)の 3 月前から当日までの間に提出しなければならない。ただし、指定管理者がこれらの期間によりがたい特別の事情があると認めるときはこの限りでない。

3 指定管理者は、研修室等の利用を承諾したときは、徳島市立考古資料館研修室等利用承諾書を交付するものとする。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(利用の取消及び利用内容の変更)

第 3 条 研修室等の利用の承諾を受けた者(以下「利用者」という。)が研修室等を利用することができなくなったときは、前条第 3 項に規定する承諾書その他指定管理者が必要と認める書類を添えて、直ちにその旨を文書で指定管理者に届け出なければならない。

2 利用者が利用の承諾の内容を変更して研修室等を利用するときは、指定管理者の承諾を受けなければならない。この場合における承諾の手続きは、前条の規定を準用する。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(利用権譲渡等の禁止)

第 4 条 利用者は、その利用に関する権利を他人に譲渡し、又は利用の承諾を受けた施設を転貸してはならない。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(特別利用の承諾)

第 5 条 条例第 6 条第 2 項の考古資料館資料の撮影、模写、模造等(以下「特別利用」という。)を行おうとする者は、徳島市立考古資料館特別利用承諾申請書を指定管理者に提出しなければならない。

2 指定管理者は、特別利用を承諾したときは、徳島市立考古資料館特別利用承諾書を交付するものとする。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(手続き等の準用)

第 6 条 第 3 条及び第 4 条の規定は、考古資料館資料の特別利用について準用する。この場合において、第 3 条第 2 項中「前条」とあるのは「第 5 条」と読み替えるものとする。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(考古資料館資料の館外貸出し)

第 7 条 考古資料館資料は、館外への貸出しをしない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、この限りではない。

(1) 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)第 2 条第 1 項に規定する博物館及び同法第 29 条に規定する博物館に相当する施設に対し貸し出す場合

(2) その他、教育委員会が特に認めた者に対し貸し出す場合

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(損傷等の届出)

第 8 条 考古資料館の施設、附属設備又は考古資料館資料を滅失し、損傷し、又は汚損した者は、直ちにその旨を係員に届け出るとともに、徳島市立考古資料館施設等滅失・損傷・汚損届を指定管理者に提出しなければならない。

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(入館者の遵守事項)

第 9 条 考古資料館の入館者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 考古資料館の施設、設備又は考古資料館資料をき損し、又は汚損しないこと。

(2) 他の入館者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

(3) 許可を受けずに考古資料館資料の撮影、模写等をしないこと。

(4) その他指定管理者が指示する事項

(一部改正〔平成 20 年教委規則 17 号〕)

(考古資料館協議会の役員)

第 10 条 条例第 14 条に規定する徳島市立考古資料館協議会(以下「協議会」という。)に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、協議会の委員(以下「委員」という。)の互選により決める。

- 3 会長及び副会長の任期は、委員としての在任期間とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 会長は、会務を総理する。
- 5 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。  
(一部改正〔平成20年教委規則17号〕)

(協議会の会議)

第11条 協議会の会議(以下「会議」という。)は会長が招集するものとする。

- 2 会議は毎年2回開催する他必要に応じて臨時会を開催するものとする。
- 3 会議は、委員の2分の1以上が出席しなければ開くことができない。
- 4 会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは会長の決するところによる。  
(一部改正〔平成20年教委規則17号〕)

(委任)

第12条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

(一部改正〔平成20年教委規則17号〕)

附 則

この規則は、平成10年10月1日から施行する。ただし、第2条・第3条・第4条・第5条・第6条・第7条・第8条・第9条・第10条・第11条・第12条・第13条及び第14条の規定については、平成10年11月21日から施行する。

附 則(平成20年6月30日教委規則第17号)

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

## 徳島市立考古資料館 子供現地学習事業助成金交付規則

(目的)

第一条 徳島市立考古資料館(以下「資料館」という。)における体験学習は様々なカリキュラムを通じて、徳島市の歴史と文化、そして考古学への関心と理解を育むためのものであり、また、資料館の活動を広く一般に周知する主要事業のひとつである。

この体験学習を社会科授業の一環として、徳島市内各小学校に活用を促す契機とするため、また、公共交通機関使用時の利便性に欠ける資料館の立地的条件を補うべく、徳島市内小学校を対象に子供現地学習事業助成金(以下「助成金」という。)を交付し、資料館の積極的利用の促進を図ることを目的とする。

(交付対象)

第二条 助成金の交付対象校は次のとおり定める。

- (1) 助成金交付対象は原則として徳島市内小学校とするが、近隣自治体の小学校に対しても可能な範囲で個別に考慮する。
- (2) 助成金は資料館を利用した社会科授業の一環としての校外学習活動の支援を目的とし、遠足や観光などを主目的とする活動には交付しない。
- (3) 学校側が使用する交通手段は公共交通機関が望ましいが、児童の利便性、安全性なども考慮に入れ、常識的な選択の範囲内であれば、これを認める。ただし自家用車利用に伴う実費の請求等、支出根拠の不透明な事例には交付しない。

(交付申請書)

第三条 助成金の交付を受けようとする小学校は、「子供現地学習事業助成金申請書」に次の書面を添付し、公益社団法人 徳島市シルバー人材センター 理事長に提出しなければならない。

- (1) 使用交通機関の領収証書(コピーであっても可。)
- (2) その他、理事長が必要と認めるもの。

(助成金の交付)

第四条 助成金申請が適当と認められた時は、以下のとおりで定めた額を交付するものとする。

また、助成金申請受付は先着順とし、交付については予算の範囲内とする。

- (1) 申請額10,000円未満までは全額を交付する。
- (2) 申請額10,000円以上は申請額の50%+5,000円の合計を交付、ただし支出最高限度額は50,000円とする。

附 則

この規約は、平成25年4月1日から施行する。

(第2条第1項関係)

## 徳島市立考古資料館研修室等利用承諾申請書

平成 年 月 日

徳島市立考古資料館長 殿

申請者 住 所

氏 名

(法人、団体等の場合は、その名称及び代表者氏名)

電 話 番

徳島市立考古資料館の研修室等を次のとおり利用したいので、申請します。

|                    |          |   |    |   |     |
|--------------------|----------|---|----|---|-----|
| 利 用 目 的            |          |   |    |   |     |
| 利用予定人数             | 人        |   |    |   |     |
| 研修室利用日時            | 年        | 月 | 日  | 時 | 分から |
|                    | 年        | 月 | 日  | 時 | 分まで |
| 付 属 設 備<br>利 用 日 時 | 年        | 月 | 日  | 時 | 分から |
|                    | 年        | 月 | 日  | 時 | 分まで |
| 付属設備の内容            |          |   |    |   |     |
| 利 用 料 金<br>(記入不要)  | 研修室利用料金  | 円 | 合計 | 円 |     |
|                    | 付属設備利用料金 | 円 |    |   |     |
| 備 考                |          |   |    |   |     |

|        |  |   |     |       |     |
|--------|--|---|-----|-------|-----|
| 承<br>認 |  | 決 | 館 長 | 事 務 長 | 担 当 |
|        |  | 裁 |     |       |     |

資料調査申込書

平成 年 月 日

徳島市立考古資料館長 宛

氏名 \_\_\_\_\_

所属 \_\_\_\_\_

住所 \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

徳島市立考古資料館にて収蔵している資料について、以下の内容で調査を申し込みます。

|         |   |
|---------|---|
| 資料名及び数量 |   |
| 調査の目的   |   |
| 調査希望日時  | 平成 年 月 日 時 分から<br>平成 年 月 日 時 分まで<br>調査期間 日間   |
| 調査の内容   | <input type="checkbox"/> 熟覧 <input type="checkbox"/> 実測 <input type="checkbox"/> 写真撮影<br><input type="checkbox"/> その他 ( ) |
| 連絡事項    |   |

|    |     |   |
|----|-----|---|
| 館長 | 事務長 | 係 |
|    |     |   |

# 渋野丸山古墳についての雑感

主任学芸員 村田 昌也

## はじめに

徳島市立考古資料館では、平成26年度より冬季企画展において『徳島市の遺跡』と題した展示をおこなっている。平成27年度は第2弾として渋野丸山古墳をとりあげ、これまでに出土した埴輪を中心に展示をおこなった。本稿は展示を企画していく中で、渋野丸山古墳に関して筆者が取り留めなく感じていたことについて展示終了後に整理し考察を加えた内容についてまとめたものである。なお、紙面と締め切りの都合上、十分な考証がおこなえなかった箇所もあり、雑感という形でまとめている点については、ご寛恕願いたい。

## 渋野丸山古墳について

渋野丸山古墳は徳島市の南東、勝浦川北岸にあたる徳島市渋野町三ツ岩および学頭に所在する前方後円墳である。1953年に渋野の古墳として徳島県の史跡に指定され、2009年に国の史跡に指定されている。

古くから開墾などに伴って墳丘の一部が改変・削平されているため、墳丘の残存状況は良好とは言えない。しかし、これまでににおこなわれた様々な調査により、築造時の渋野丸山古墳の規模についておおよそ明らかになりつつある。



図1 渋野丸山古墳と周辺の遺跡 (縮尺 1 : 25,000)

1. 渋野丸山古墳 2. 天王ノ森古墳 3. 新宮塚古墳 4. マンジヨ塚古墳 5. マンジヨ塚2号墳 6. 丈領古墳 7. 桜間古墳 8. 渋野遺跡

墳丘は丘陵南側の端部に位置し、丘尾切断と盛り土による整形によって築造されたと考えられる。墳丘は3段築成で全長が約105メートル、主軸は後円部を東側に置いてほぼ東西方向にとる。後円部の直径は約67メートルと推定され、高さは現高で約9メートルを測る。前方部の幅は約65メートルと推定され、高さは残存している最も高い位置で7メートルを測る。

墳丘の南(左)側くびれ部に造出を有している。北(右)側くびれ部に造出は確認されていないが、筆者は墳丘の築造段階で構築されていなかったのではないかと考えている。

墳丘の周囲に壕を巡らせており、南側半分は盾形を呈しているが、北側については、馬蹄形が想定されているものの丘尾の切り離しの溝の幅が狭く、壕の存在の有無も含めて形状については不明確な点が多い。<sup>(註1)</sup>

墳丘の北側が丘陵と近接しているのに対して南側には狭小ながら沖積による平地が広がっていることから、平地側からの視点を強く意識して築造されたことが伺える。傾斜面に築造された奈良県の西殿塚古墳の事例のように、“見える側”を大きく築造し、“見えない側”は地形に合わせた形状で整形した左右非対称の前方後円墳であった可能性も考えられ、墳丘北側くびれ部に造出が存在しないと考えるのは、そのためである。

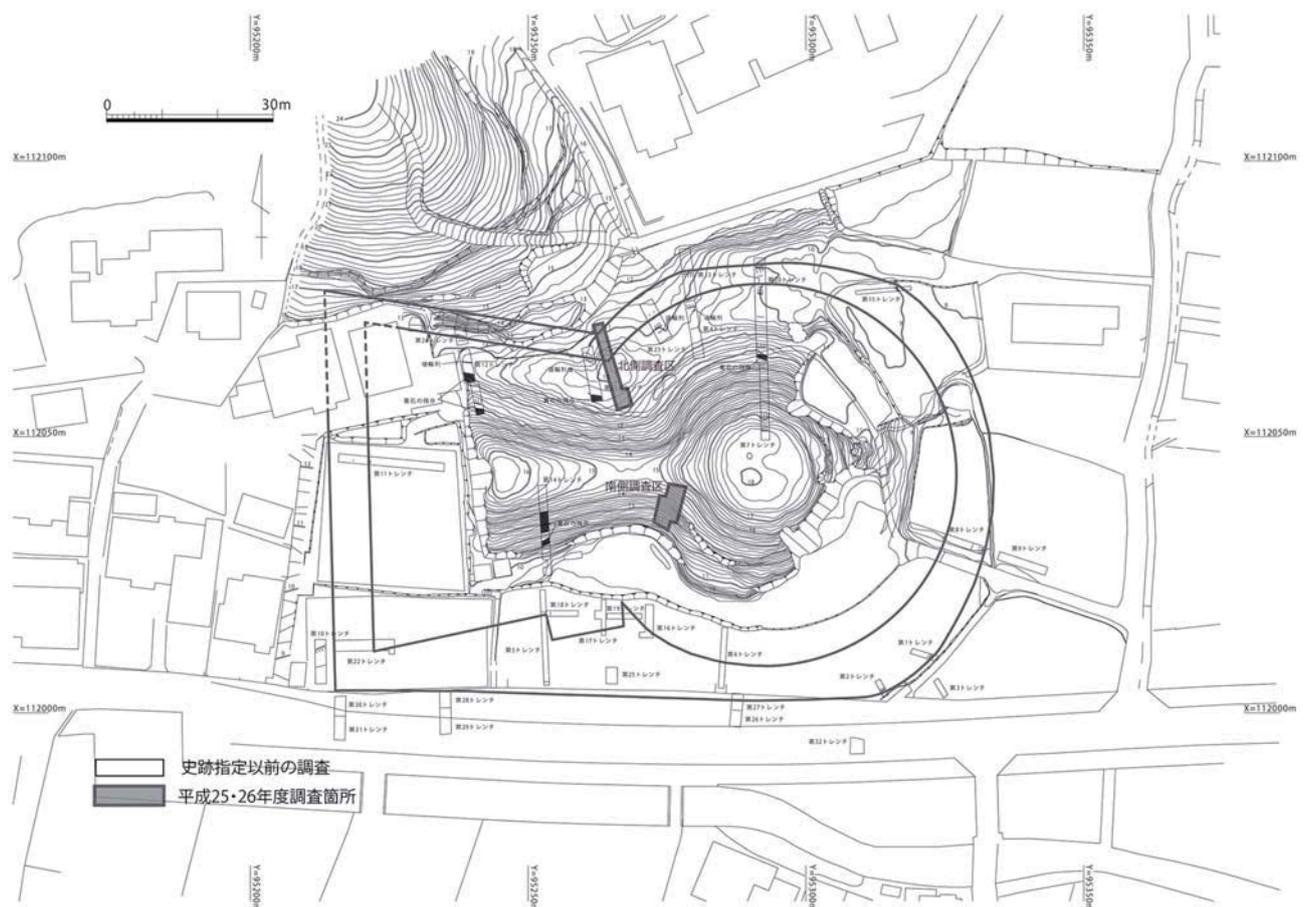


図2 波野丸山古墳墳丘測量図と墳丘推定線および既往の調査トレンチ配置図

### 波野丸山古墳の墳丘形状に関する雑感

筆者は定型化された前方後円墳の出現を奈良県に所在する箸墓古墳に求める立場をとっているが、その箸墓古墳の築造以降、箸墓古墳の相似形の古墳が各地で築造され、それらの古墳の多くが箸墓古墳の規模に対して定格化された縮尺で築造されており、箸墓古墳の被葬者を盟主として、各古墳の被葬者の関係性や序列を示唆させる目安となっている。

前方後円墳が出現した当初から被葬者と盟主の関係性を墳丘の形状とその規模で表す仕組みが

みられ、それはもはや政治的制約のもと厳格に施行され、盟主との関係が強ければ強いほど厳格に守られていたのではないかと筆者は考えている。

渋野丸山古墳についても築造にあたり基準となる古墳が存在し、墳丘の大きさも基準に基づいて築造された可能性が考えられる。そこで渋野丸山古墳築造に先行して築造されたと考えられる大和・河内に所在する大型古墳との相似性の検証を行った。

|              | 渋野丸山   | 室宮山     | コナベ     | 島の山    | 栗山     | 新木山     | 築山     | 仲津山     | 百舌鳥陵山   |
|--------------|--------|---------|---------|--------|--------|---------|--------|---------|---------|
| 墳長(m)        | 105    | 238     | 210     | 190    | 210    | 200     | 210    | 290     | 360     |
| 後円部径(m)      | 69     | 148     | 130     | 98     | 118    | 117     | 120    | 170     | 200     |
| 前方部幅(m)      | 59     | 152     | 135     | 93     | 94     | 118     | 105    | 193     | 237     |
| 前方部長(m)      | 44     | 113     | 100     | 97     | 109    | 108     | 103    | 162     | 190     |
| くびれ幅(m)      | 43     | 107     | 105     | 68     | 60     | 100     | 80     | 110     | 158     |
| 後円部径/墳長(%)   | 65.71% | 62.18%  | 61.90%  | 51.58% | 56.19% | 58.50%  | 57.14% | 58.62%  | 55.56%  |
| 前方部幅/墳長(%)   | 56.19% | 63.87%  | 64.29%  | 48.95% | 44.76% | 59.00%  | 50.00% | 66.55%  | 65.83%  |
| 前方部幅/後円部径(%) | 85.51% | 102.70% | 103.85% | 94.90% | 79.66% | 100.85% | 87.50% | 113.53% | 118.50% |
| 前方部長/墳長(%)   | 41.90% | 47.48%  | 47.62%  | 51.05% | 51.90% | 54.00%  | 49.05% | 55.86%  | 52.78%  |
| くびれ幅/後円部径(%) | 62.32% | 72.30%  | 80.77%  | 69.39% | 50.85% | 85.47%  | 66.67% | 64.71%  | 79.00%  |
| くびれ幅/前方部幅(%) | 72.88% | 70.39%  | 77.78%  | 73.12% | 63.83% | 84.75%  | 76.19% | 56.99%  | 66.67%  |

表1 渋野丸山古墳と古墳時代前期末葉～中期前葉の大型古墳比較

|           | 渋野丸山 | 室宮山  | コナベ  | 島の山  | 栗山   | 新木山  | 築山   | 仲津山  | 百舌鳥陵山 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 後円部径/墳長   | 1    | 0.95 | 0.94 | 0.78 | 0.86 | 0.89 | 0.87 | 0.89 | 0.85  |
| 前方部幅/墳長   | 1    | 1.14 | 1.14 | 0.87 | 0.80 | 1.05 | 0.89 | 1.18 | 1.17  |
| 前方部幅/後円部径 | 1    | 1.20 | 1.21 | 1.11 | 0.93 | 1.18 | 1.02 | 1.33 | 1.39  |
| 前方部長/墳長   | 1    | 1.13 | 1.14 | 1.22 | 1.24 | 1.29 | 1.17 | 1.33 | 1.26  |
| くびれ幅/後円部径 | 1    | 1.16 | 1.30 | 1.11 | 0.82 | 1.37 | 1.07 | 1.04 | 1.27  |
| くびれ幅/前方部幅 | 1    | 0.97 | 0.78 | 1.00 | 0.88 | 1.16 | 1.05 | 0.78 | 0.91  |

表2 渋野丸山古墳と古墳時代前期末葉～中期前葉の大型古墳比較2

古墳時代前期末から中期初頭に築造された200メートル級以上の前方後円墳のうち盾形の周壕を有する古墳を選び、墳長に対する後円部径・前方部幅・前方部長の比率、後円部径に対する前方部幅・くびれ幅の比率、前方部幅に対するくびれ幅の比率を数値化し(表1)、さらに数値化した比率のうち渋野丸山古墳の数値を1とした場合の各古墳の数値を求めた(表2)。

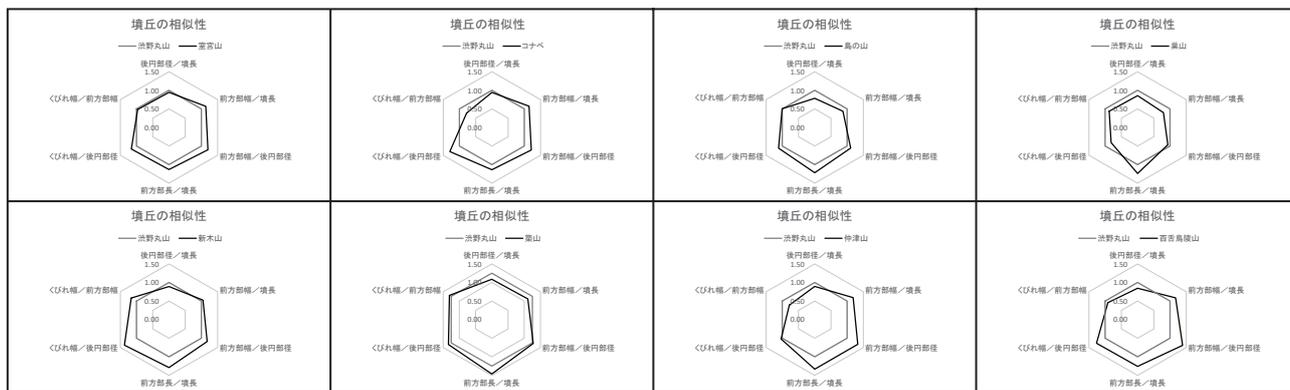


表3 渋野丸山古墳との墳丘の相似性レーダーチャート

その結果、渋野丸山古墳の形状に最も近いと判断できる数値になった室宮山古墳であった。また、室宮山古墳とコナベ古墳は渋野丸山古墳よりも相似性が高いことが判断できた。

室宮山古墳は奈良盆地の南西端にあたる奈良県御所市に所在し室大墓(むろのおおはか)とも呼ばれている。紀伊から大和へ下街道から入り、奈良盆地が最初に開ける地点に立地している。これまでに複数回にわたって発掘調査が行われ、埋葬施設や埴輪などの出土品といった概要が明らかになっている大型古墳の一つといえる。被葬者については、確実な資料は出土していないものの、『日本書紀』や『古事記』にみられる葛城襲津彦をあてる説が多くみられる。

室宮山古墳と渋野丸山古墳の墳丘の平面形において最も異なる点は、室宮山古墳の前方部両側に造出とは異なる張出部の存在があげられる。木許守氏は張出部に埋葬施設の存在を示唆してお

<sup>(註2)</sup>り、筆者もそれに同意する立場であるが、この張出部については、室宮山古墳の本来の被葬者の近親者を埋葬するために墳丘の築造後に造り足されたものではないかと考えており、築造当初の室宮山古墳には張出部は存在していなかったのではないかと考えている。そうであるならば宮山古墳には前方部の北側（右側）のみに造出が存在したことになり、左右が逆になるが、渋野丸山古墳と同様に前方部の片側に造出を有するという点でも一致する。また造出が設けられた墳丘の北側は、奈良盆地側にあたり、さらに限定して言い換えれば葛城氏の居館があったとみられる秋津遺跡が存在した側であり、そこからの視点を意識して築造した可能性がうかがえる。

### 渋野丸山古墳出土円筒埴輪に関する雑感

これまでの発掘調査で渋野丸山古墳からは複数の埴輪が出土している。主に円筒埴輪が中心になるが円筒埴輪の他に朝顔形埴輪、形象埴輪として家形・靴形・甲冑（草摺）形・盾形・蓋形・船形の破片が出土している。

渋野丸山古墳より出土した円筒埴輪は大きく分けて3条凸帯のものと2条凸帯のものに大別できる。これらのうち直径が口縁部側で約30センチ、底部側で約23センチになり、器高が約50センチを測る3条凸帯の円筒埴輪をここでは仮にA群としておく。A群の円筒埴輪はそれぞれの凸帯間の幅と口縁部の高さがおおよそ11～12センチになる。続いてA群と同じ直径・器高ながら凸帯が2条の円筒埴輪をB群とする。B群の円筒埴輪は凸帯間と口縁部の高さがおおむね14センチになるように製作されている。渋野丸山古墳の円筒埴輪の多くはA群またはB群に属するものであると考えられ、渋野丸山古墳に設置する円筒埴輪の製作にあたり一定の規格が存在していたとみられる。現状ではB群に類する円筒埴輪がやや多い印象を受ける。

A群・B群の他に器高が50センチに満たない、直径がA・B群の埴輪よりやや大きいあるいは小さい、2条凸帯ながらB群の円筒埴輪とは異なる凸帯間の幅になるものなどイレギュラーな円筒埴輪も存在し、それらをC群としておく。C群の中には蓋形埴輪や甲冑形埴輪の基部を想定するのが適当ではないかとみられるものも認められる。

坂靖氏は大阪府の津堂城山古墳が初出とみられる円筒埴輪の規格のひとつが、津堂城山古墳の次の段階にあたる3期1～2段階で奈良県の室宮山古墳や平塚1号墳さらに宮崎県の女狭穂塚古墳の円筒埴輪（4条凸帯）に凸帯の高さも含めて同形同大で踏襲されていることを指摘している。<sup>(註3)</sup> 渋野丸山古墳の円筒埴輪のうちA群の円筒埴輪は、それらの円筒埴輪よりも凸帯が1条少なくなる違いはあるが、凸帯間の幅と凸帯の高さに関しては、それらの円筒埴輪の規格を踏襲しているといっていよう。

渋野丸山古墳の第5次調査において第12トレンチで前方部下段平坦面に設置されたとみられる円筒埴輪列が検出されている。2メートルの間に7本の円筒埴輪が設置されており、それらの円筒埴輪はA群・B群・C群いずれの円筒埴輪が認められ、円筒埴輪を設置していくうえで円筒埴輪の使い分けが行われていたわけでは無さそうである。

渋野丸山古墳の円筒埴輪にはヘラ状工具によるとみられる線刻を有するものが多くみられる。様々な形状の線刻が存在するが、どれも円筒埴輪の表面を装飾する目的で施されたものとは考えにくく、一種の記号であると考えられる。ほとんど簡素な意匠のものばかりで、連続性や規則性のあるものがみられないこと、2種類以上の線刻を有する円筒埴輪が存在しないこと、線刻に写実性は見られず、施した人物にしか線刻の意匠の意図はわからないとみられることがあげられる。<sup>(註4)</sup> 以上のことからこれらの線刻についてはヘラ記号であると判断し、以後ヘラ記号と記述する。

数あるヘラ記号のうち、筆者が最も興味を示したのが、下向きの二重弧線である。4例が認められ、そのうち3例（報41・42・45）はB群、1例（報12）はA群に属する。B群の3例のうち1例（報45）は表面の風化により判断に苦しむが、残りの2例については同一工人による製作と判断できる。<sup>(註5)</sup>

ただ3例とも円筒埴輪の第2段にヘラ記号が施されており、尚且つスカシ孔を基準にみると位置も厳密にそろえて記号を施している意図がみられる。それに対してA群の1例はハケによる調整の方法から明らかにB群の3例を製作した工人とは別の工人が製作したことが推測され、ヘラ記号が工人個人を特定するものではないようである。

他の記号については、類例が僅かであるため、下向きの二重弧線のような傾向が見られるかの判断は控えたい。ただ、大半のヘラ記号が最上段にあたる口縁部に施されていること、それに合わせて全体が復元できる唯一の朝顔形埴輪（報51）に施されていたヘラ記号も円筒埴輪の口縁部の位置に該当する肩部に施されていることから、これらのヘラ記号は施す位置についても意識していたと判断してよさそうである。

### 舟形埴輪に関する雑感

先にも述べているが、渋野丸山古墳からは船形埴輪片が1点出土している。報告の段階では舟形埴輪の可能性を示唆するにとどめているが、後に藤川智之氏によって舟形埴輪片であると断定に至っている。出土した舟形埴輪片は舷側板の先端あるいは末端の部分で、一体成型で舷側板から突き出している横木の表現も見られる。

舟形埴輪については、しばしば舟形石棺とともに舟葬に関連するものとして取り上げられているが、筆者はこれに対して懐疑的な立場をとる。

そもそも古墳時代における舟葬については、『隋書』倭人伝の記述が大きく影響していると考えられる。奈良県の巢山古墳で出土した舟形木製品は『隋書』倭人伝の記述を裏付ける資料といえ、遺体を納めた棺の運搬にあたって、棺がさも舟に載せられて運ばれていくかのような演出が当時行われていた可能性については否定しない。しかし、棺が古墳に安置された後、死者の魂が舟形埴輪に乗って冥界に運ばれていくかのような解釈には否定的な立場をとる。

舟形埴輪の意味付けについては同じく出土した他の形象埴輪と合わせて検討を加えるべきであろう。渋野丸山古墳の場合、舟形埴輪を除くと家形・靴形・甲冑（草摺）形・盾形・蓋形埴輪が出土している。これらの埴輪は古墳時代中期前葉の古墳から出土するようになり、同様の組み合わせの埴輪が室宮山古墳からも出土している。坂氏は室宮山古墳で出土したこれらの形象埴輪うち家形埴輪について、様々な構造の家形埴輪が存在し、それらの家形埴輪の構造と同様の建物が近接する極楽寺ヒビキ遺跡で実際に建てられていたとみられることから室宮山古墳の埴輪は当時現実に存在した豪族居館を再現したものであるとしている<sup>(註3)</sup>。なお、室宮山古墳と極楽寺ヒビキ遺跡では、極楽寺ヒビキ遺跡の成立よりも室宮山古墳の築造が先行するため、室宮山古墳の墳丘上に埴輪で再現された豪族居館は極楽寺ヒビキ遺跡のものではなく、坂氏も葛城地域のいずれかの土地に存在した豪族居館をモデルにしたものと断定しているが、そのモデルになった豪族居館こそ、室宮山古墳の北方に展開する秋津遺跡に求めることができるだろう。

話が逸れてしまった感があるが、坂氏のこの解釈に基づけば、形象埴輪そのものが現実に存在していたもの、さらに限定して言えば、被葬者の生前における威信を示すものを埴輪に置き換えたものといえる。そこに死者の魂を冥界へ運ぶ舟といった死生観に基づく非現実的なものが埴輪として製作・設置されたとは考えにくい。舟形埴輪も他の形象埴輪と同様に被葬者が生前に所有していたものを埴輪にして再現したと考えるべきであり、渋野丸山古墳の被葬者が船を所有していたという推測が成り立つのである。

### まとめ

これまで渋野丸山古墳の墳丘の形状、出土した円筒埴輪、舟形埴輪に関する雑感について述べてきた。それらを踏まえて推測される渋野丸山古墳の位置づけ、あるいは被葬者の性格について

記していく。

渋野丸山古墳の墳丘は、室宮山古墳の墳丘をモデルにして築造された可能性が高いのではないかと筆者は考えている。しかしながら渋野丸山古墳を築造するにあたり、室宮山古墳とは異なる丘尾切断による築造であったため、特に前方部北側にあたる箇所は岩盤の影響により完全な掘削には至らず室宮山古墳とは異なる形状にならざるを得なかったのではないかと考えている。そして墳丘の規模については室宮山古墳の影響よりもその後の河内・大和の大型前方後円墳の秩序に則っていたのではないかと考えられる。

古墳時代中期を迎えると津堂城山古墳の出現以降、河内で大型の前方後円墳が築造されるようになり、王権が大和から河内へ移ったことは容易に想像がつく。その中で大和では佐紀盾列古墳群と馬見古墳群で 200 メートル級の前方後円墳が相次いで築造されている。今尾文昭氏は百舌鳥・古市古墳群の超大型古墳の存在をもって大王が出現したと捉えており、軍事によるカリスマとしての職位の世襲傾向を強め、政権内の軍事的支配をはかる「大王」の存在があったとし、その時期に形成された佐紀古墳群東群の被葬者について「大王」に次ぐ政治的役割・社会的地位を担ったとし、倭王珍とともに将軍号を求めて許可される倭隋ら 13 人のうちの 1 人を想定している。

その考えに則れば、佐紀盾列古墳群東群の端緒となるコナベ古墳が、それまでに築造されていた佐紀盾列古墳群西群・中央群の前方後円墳の墳丘形状の系譜とは異なり、渋野丸山古墳と同様に室宮山古墳の墳丘形状を踏襲していること、かつ墳長が 210 メートルと渋野丸山古墳のちょうど 2 倍の規模になることは大変興味深い事象といえる。

推測の域を脱することはできないが、筆者は渋野丸山古墳の被葬者は室宮山古墳の被葬者の隸下にあった軍人だったのではないかと考えている。室宮山古墳の被葬者については葛城襲津彦をあてる説がみられるが、その真偽は別にしても、この時期に行われた朝鮮半島への出兵に関連した将軍クラスの人物である可能性は高いだろう。朝鮮半島への出兵には軍船が必要不可欠であり、渋野丸山古墳で舟形埴輪が出土しているのは渋野丸山古墳の被葬者が将軍に付き従い軍船の船団の一端を率いていた人物であったことを示す査証であると考えられなくはないだろうか。

阿波においてそれまでに前方後円墳が築造されてきた地域とは全く異なる場所に突如として渋野丸山古墳が築造されたのは、渋野丸山古墳の被葬者が生来阿波にゆかりのあった人物ではなく、むしろ室宮山古墳の被葬者に近く、出自も葛城地域の人物であったからではないだろうか。勝浦川から紀伊水道に出れば対岸は紀の川河口である。紀の川をさかのぼれば、葛城地域に通じる下街道に接続するルートが想定でき、阿波から葛城地域への最短ルートが見えてくるのである。何かしらの目的があって阿波へ派遣されたのであろう。徴兵、あるいは軍船の材となる木材の調達などが想定できるが、それを示す資料は今のところ何も見つかっていない。

倭王珍とともに倭隋ら 13 人に将軍号が許されたのは室宮山古墳の被葬者の没後のことと考えられる。この段階でヤマト王権内において新たな序列が成立し、それに基づいた墳丘規模の秩序も成立したのではないだろうか。室宮山古墳の被葬者の没後、渋野丸山古墳の被葬者が誰に付き従ったのか、室宮山古墳と同じ平面形を踏襲するコナベ古墳の被葬者をあてたいが、誰であったにせよ、将軍号を許された人物が 200 メートル級の前方後円墳を築造していたとなると、その半分の規模である渋野丸山古墳の被葬者は、将軍号を許された人物の副官クラス程度の立場におさまっていたのではないだろうか。

最後に渋野丸山古墳の築造をめぐる作業量に関して記していく。古墳時代中期の大型前方後円墳の多くが平地に土を盛って築造しているのに対して、渋野丸山古墳は、平野部に差し掛かる丘陵末端を切り離して削り、その上に土を盛って整形している。埴輪の製作に関しては、廣瀬覚氏が五色塚古墳の埴輪製産組織について数人の工人からなる小グループいくつも存在し、その小グループ内では工人相互が非常に密接な関係にあったことを出土した埴輪の差異やヘラ記号から読

み取っているが、このような組織編成が様々なヘラ記号を有する円筒埴輪が出土する渋野丸山古墳の埴輪生産にも存在した可能性が考えられる。

筆者は渋野丸山古墳の埴輪生産にあたり畿内から埴輪製作工人数人が派遣され、その製作工人をリーダーに据え、在地の工人あるいは動員された在地の人たちを加えて廣瀬氏のいう小グループが編成されたのではないかと考えている。まだ出土点数が少ないため、あくまでも可能性のひとつとしてとらえていただきたいが、先述のA群の円筒埴輪は派遣工人、B・C群の円筒埴輪は在地の工人によって製作されたのではないかと考えている。これは同一のヘラ記号を施しながらも、凸帯間の幅や凸帯の高さが近畿地方で踏襲されていた規格に忠実な3条凸帯のものと、そうではない2条凸帯、規格性があいまいな円筒埴輪が共存し、それらが使い分けられるわけでもなく墳丘に設置されていたからである。

仮にヘラ記号が特定の小グループを示すものであるならば、同じヘラ記号を有しながらA・B・C群と円筒埴輪の形に違いが認められるのは、工人の熟練度の違いを示しているとは考えられないだろうか。渋野丸山古墳では墳丘の各平坦面に全周するように円筒埴輪を設置したと想定した場合、最低でも2250本の円筒埴輪が必要になる。それだけの量を短期間で生産するには、円筒埴輪の高さと直径を揃えるという最低限の規格性のみを維持し、凸帯の数や間隔を揃えることは諦めざるを得なかったのかもしれない。

さらにA群の埴輪は凸帯間の幅については畿内における規格を踏襲しているが、凸帯の本数については1条少ない。これは渋野丸山古墳の円筒埴輪が墳丘への設置にあたり、ごく浅い溝を掘りほぼ置き並べるような状態で設置していることが分かっており、基底部に当たる部分の製作を省略したため凸帯が1条分少ない円筒埴輪が生産されたと考えられる。

以上のように渋野丸山古墳は墳丘の構築、埴輪の生産・設置にあたって労力を抑える努力がなされたいたと考えられる。その理由を示すものは見つからないが、当時河内における大型前方後円墳の築造にひとりでも多く人員を動員する必要があったからなのかもしれない。

## 註

註1 徳島市教育委員会 2006年 『渋野丸山古墳発掘調査報告書』 徳島市教育委員会

註2 木許守 1996年 「室宮山古墳墳丘復元案」『室宮山古墳範囲確認調査報告』 御所市文化財調査報告書第20集 御所市教育委員会

註3 坂靖 2009年 「埴輪文化の画期と変容」『古墳時代の遺跡学—ヤマト王権の支配構造と埴輪文化—』 雄山閣

註4 山田邦和 2006年 「記号の役割」『文字と古代日本』5 文字表現の獲得 吉川弘文館

註5 註1掲載の資料番号

註6 藤川智之 2009年 「最盛期の埴輪群—渋野丸山古墳出土形象埴輪をめぐって—」『一山典還暦記念論集 考古学と地域文化』 一山典還暦記念論集刊行会

註7 今尾文昭 2014年 『ヤマト王権の一大勢力 佐紀古墳群』 シリーズ「遺跡を学ぶ」093 新泉社

註8 廣瀬覚 2006年 「五色塚古墳と前期後葉の埴輪生産」『史跡五色塚古墳 小壺古墳発掘調査・復元整備報告書』 神戸市教育委員会

※表1の各古墳の規模については、以下の資料を参照した。

近藤義郎 1992年 『前方後円墳集成』 近畿編 山川出版社

奈良県立橿原考古学研究所 2001年 『大和前方後円墳集成』 橿原考古学研究所研究成果第4冊 奈良県立橿原考古学研究所

---

徳島市立考古資料館年報  
第18号 (平成27年度)

発行年月日 平成28(2016)年5月31日

編集・発行 徳島市立考古資料館  
徳島市国府町西矢野字奥谷10-1  
TEL 088-637-2526 FAX 088-642-6916  
URL <http://tokushima-kouko.jp>

印刷・製本 グランド印刷株式会社

---

表紙写真 波野丸山古墳出土 朝顔形円筒埴輪

